太田市自分ごと化会議 2021
第 3 回　議事概要

日時	2022 年 2 月 27 日（日）13 時 30 分～16 時 30 分
場所	オンライン
コーディネーター	千葉県市原市　企画部長　高澤　良英

凡例）コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要
■前回の振り返り コ：これからのコミュニティを考える理由が様々ある。今は良いが、災害が起きた時に避難所への避難の助け合いなどができるのか。（そのためには普段からの関係性の構築が必要なのでは。）交通の足がない人の買い物や通院等はどうすればよいか。自治会の加入率の低下や地域の役員を決めるのも大変で、このままの形で今のコミュニティを維持できるのか。これは情報提供であるが、阪神淡路大震災時の救出の方法 77.1%が近隣の住民による救出であったという事実もある。あれだけの規模の災害が起きた時に消防などだけで対応するのは難しい。災害が起きた時によく言われることに 72 時間以内にいかに救助するかということがあり、そのためには公助の部分（隣人救助の人）での助け合いは重要となってくる。1 時間に 80 ミリの雨（1 時間に 50 ミリで車での移動が困難になる程度）が降る割合この約 30 年で 1.7 倍程度増えており、今まで災害が起きていなかった場所でも災害が起きるケースが増えてきている。それともう 1 つ、皆さん割れ窓の法則を知っていますか？NY などの都市での犯罪の話で、例えば空き家などの割れた窓を放置しておくとどんどん犯罪が増加していく傾向があるという話のこと。（NY では地下鉄などの環境をきれいにすることで犯罪率が減ったという。）不法投棄などについても同様のことが言えると思う。また肌感覚の話であるが、犯罪が多く起きている地域にはなんとなく同じような傾向があって、そこに住む人たちがお互いに無関心なような地域は犯罪などが多いような傾向があるというような話もあり、そういった面でも地域のコミュニティは重要なのではないかと思う。また、ソーシャルキャピタルという考え方もある。社会関係資本と訳されることもあり、人々の協調行動を活発化させることで、社会の効率を高めるということ。経済的な観点等から評価することは難しいが、社会にとってとても重要な財産となる。日本よりもヨーロッパ諸国の方がこの考え方を重視している。ソーシャルキャピタルの指数と合計特殊出生率に相関関係が見られるというデータもある。絆という言葉は牛や馬を留めるために木に綱でつなぎとめておいたことが由来とも言われている。絆はもちろん大切なことだが、行き過ぎてしまうと縛られてしまうことにもつながってしまうこともある。時代の変化や年代ごとの価値観の変化に合った関係性を考える時期にあるのではないかということは、皆さん共通認識として持っている。太田市にとって

理想となる新しいコミュニティの形をコミュニティ 2.0 として、どんな形が理想かを皆さんで考えていきたい。

※今日の進め方は省略

コ：ここまでの話と、過去 2 回で皆さんからいただいた“こんなコミュニティは嫌だ”と“これからの地域コミュニティの姿”を振り返ってみて、質問や感想やご意見があったらお願いします。

委：年代などによってコミュニティに対するかかわり方も違うので、難しい部分もあるように感じた。私などは子育ても終わって地域との関りも薄くなっている。

コ：確かにそうですね。僕自身も子育てが終わっていて地域コミュニティとの関りが若干うすくなっていると感じるが、今現在特に困ってはいない。ただ、自分が定年を迎えて会社とのコミュニティがなくなったときに、地域コミュニティとの関りがないと気付いたり、年齢を重ね一人暮らしになり具合が悪くなったりして困ったときに、コミュニティの必要性を感じることもあるかもしれない。今から自分事として考えておくことも大事かとも思う。

委：私が幼少の頃は地域の子供が悪さをしたら近所の人に怒られたりすることもあったり、今より地域のつながりは強かったと感じている。今現在は自分自身も地域との関りはかなり少なくなっている。年に 1 回の地域の清掃の時くらい。

委：自分は商売をやっていたから、今でも友達や周りとのつながりは多い。逆に会社に勤めていて退職人で、周囲との関りが少なくなっている人もいるように感じる。

委：コロナ禍により直接の関りは希薄になっていて、関わり方も多様化していると思う。関りがなくなってしまうと関係性まで希薄になってしますので、今日のようにオンラインによるつながりなどもあるし、手軽な新しい形でのつながり方を活用して、関係性を維持していく必要があるのではないかと感じた。

コ：コロナ禍で不要な飲み会などが無くなったのは個人的には良かったなと感じますね。

委：コロナの影響や、仕事が忙しくて参加できない人もいると思う。いかに省力化してつながる方法が大事なのではないか。また、災害時などに協力し合える仕組みは大事になってくると思う。

コ：他の自治体でコミュニティについて考える機会があったのだが、防災や防犯についてはどの年代に対しても共通の話題となるため、コミュニティを考える上でのトピックとしてイメージしやすいなということは感じた。

委：役員の話について。自分に対してはこれまで地域の役員の依頼などはないが、もしあればやってみてもいいと思っている。同様に話があればやってみてもいいと思う人はいるのではと感じている。

コ：若い世代の人が役員などに参加してくれると、地域の人はきっとうれしいと思うので、今後そういった機会を持ってもらえるといいと思います。

委：私自身は夜勤などもあり、今現在は地域の人と関りを持つことが難しいと感じているが、もし自分が退職した後などにそこから地域のコミュニティに溶け込めるのかと考えると不安にも感じる。これまでは地域の運動会やお祭りがあって参加していたがそれも無くなり、どんどんつながる機会が減ってしまっていて、どうするといいのかなと思っている。

コ：コミュニティの問題はなかなかすぐに答えが出ないが、それでも考えていくことも大事なので、考えることで少しでも何かのきっかけになるといいと思う。

委：コミュニティの重要さをコロナの濃厚接触者になってより感じた。7 日間自宅待機をしていたのだが、その時に隣人が食べ物をお裾分けしてくれたりしてとてもありがたかったし、気持ち的にも助けられ、コミュニティの大切さを身をもって感じた。また、消防団の活動で一人暮らしの高齢者の火事に対応したとき、近所の方が「おじいさんが一人で住んでいてこのあたりの部屋で寝ているはず」という情報を提供してくれてとても役立った。普段から地域のつながりがないとこういったことはできないだろうし、コミュニティの大切さを改めて感じた。

コ：ある地域で竜巻の被害でかなりの数のお宅が被害を受けたことがあったが、その地域はコミュニティのつながりが強くてどこに誰と誰が住んでいるかをお互い把握していたので、救助する際に消防隊がとても助かったといケースも過去にあった。

委：まだいまいちピンと来ていない部分があるので、皆さんのお話を参考にしながら考えていきたい。

委：お年寄りには焦点が当たるが、障がいのある方には意外と焦点が当たっていないと感じる。弱い方のことを考える時にお年寄りだけでなく、障がい者の方がどんな障がいを抱えているか、例えば発達障害の方に対してであれば、それがどんな障害でどういう特徴があるかを理解してもらうこともとても大切だと感じた。

コ：確かに弱い立場の人にとっての方がより、コミュニティの役割が大切になってくるのではないかなと思います。では、ここからは 7 つのテーマについて皆さんから思っていること、実際にこういう問題があるなどのご意見をいただきたい。

①行政役員

委：PTA の役員のなり手がいないということを考えたときに、私が役員になったらこんなことをやりたいといったようなビジョンを持った方にやってもらうと、学校の組織がよりよくなるのではないかという話をきいたのだが、印象的だった。誰々さんやってと押し付けあうのではなく、やりたい人が自主的にやるということが大切なのかなと感じた。

コ：やらされ感のある人がやるのではなく、ビジョンを持った人に役をやっていただけることはとてもありがたいことだと思う。実際にそういった方が役員をやっている例などは皆さんの周りにありますか？

委：うちの子供の通う小学校の PTA 会長さんはすごくバイタリティをもってやってくれている。

コ：そういう方に役員をやっていただけているのはありがたいことですね。ただ、そういった方が出てくるのを待っていても出てくるかは分からない。もしご自身が頼まれたらどうですか？

委：頼まれごとは試されごととして、やってみて自分なりに努力するのもありなのかなと思う。やってみて先輩方の苦労を知るということも必要かと思う。

コ：頼まれてやった結果、こんなことが身についたなどのようにメリットになったことが見えたりすると、トライしようという人が増えるかもしれないですね。

委：自分の地区にも様々な役がある。民生委員という仕事は大変ではあるがやりがいもあると感じている。民生委員の選出は区長さんが行っているが、今後選出に困っているようなことがあれば手伝えることは手伝いたいと思う。

コ：やはり役員をやったことによるメリットややりがいなどを発信することが大切なのではないか。また、主体性（やりがい）を持って役員をやってくれている人を紹介するなども。役員をやってよかったことと同時に、その役員さんがいたことによって助かった人（相談して助かった人）の声も発信することも大切かなと感じた。

委：私自身行政の役員をやったことが無いのだが、役員の人が実際にどんなことをしているのかを分かるようにする必要があるのではないか。イメージとして上から言われたこと、与えられたことをそのままやるようなイメージを持つが、このイメージがやりたいと思わなくなる要因の一つであるように思う。何かやりたいことがあれば、ある程度の自由度があることなどが予めわかっていれば、やる側の意識も変わるだろうし、なり手も増えるのではないか。

コ：行政からのやらされ感からやりたい人が出てこないというのは実際あると思う。自由度がなくやらされているというイメージ。どれだけ参画できるかということが大切なのかと思う。

②地域の役員

委：行政の役員と地域の役員の区別は多くの人はわからないと思うし、役員の効率化・簡素化するには地域だけではできないと思うし、行政の後押しもなければ進まないと思う。

コ：今回太田市が地域コミュニティをテーマに選んだということは、行政としてそれなりに課題意識を持っているからだと思う。ただ、行政の今までの考え方ややり方で役員を考えたり、情報発信をしていては効率化しない部分もあると思う。行政としても地域コミュニティがうまく機能していれば、代わりに別の問題に注力できたりもする。行政として地域コミュニティに対して課題認識をしっかりする必要がある。違う話だが、報酬の部分などはどうなのでしょうか。

委：うちの地域では民生委員や組長などは年間 2,000 円の金券の報酬はある。

委：金銭的な報酬よりも、この役員がどう役に立っているかなどの内容が周知され、活動に対して協力してもらえることも大切なのではないかと思う。

委：やり手の不足の所で思うことだが、大変なイメージだけが先行しているのではないか。実際に要求される参加頻度や仕事内容がはっきりわかっていれば、これなら参加できると思ってくれる人もいるのではないか。そういった情報提供が大切かと思う。

コ：実際の役員の事務量・大変さ・やりがいが明確にならないと受けるほうも困惑するということですね。周知だけでなく明確化すること。

委：明確化することが、役員や事務の効率化にもつながるのではないか。

③地域コミュニティの運営

委：上毛新聞にある町で実施しているチーム作りという記事があった。自分の地域でチームなどがあると参加意識などが高まる可能性があるのかと感じた。地域ごとに自分たちの住みやすい地域づくりのために活動し、何ができるかということを考えるチームの話だった。

コ：大人の部活という名前で活動している場所もある。やらされ感ではなく、やりたい人が自発的にやるのはとてもいいこと。

委：全国でこども食堂などが話題になっているが、どこかに人が集まれるような場所（居場所）を作ることも必要かと思う。作ろうと思ってもどう作ってよいかわからないが、例えば行政がそのとっかかりを作ってくれたりすると、そういった活動も活発になるのではないか。

コ：居場所を必要とする人は確かにいると思う。また、住民のやりたいを後押しする仕組みを行政としてもうことも大事なのではと思う。子供の貧困について住民の人などと話す機会があるのだが、そういう時に行政は意外と冷たいと言われることもある。例えば、公民館に話をつないでくれるだけでよいと思っていてもそれすらやってくれないことがあったという声もあった。

委：子供の貧困に対する対応などは地域差があってはいけないと思うので、うまくいっている地域の例をほかの地域に情報共有するということなどは、行政が担う必要があるのではないかと感じた。また、運営方法の見直しなどは年代の違いなどで自分たちだけでは着手しづらい（若い世代や転入してきた人たちが地域の年長者たちに意見を言いづらい）部分もあるので、行政が第 3 者という立場で情報提供することで促すことも必要なのでは。

コ：行政が第 3 者的な意見提供するということですかね。「若い世代からこんな意見があったのですよ」といったことを行政が第 3 者として提供することで話し合いを始めやすくなることもあるかと思う。住民の困りごとを見える化することが大切ですね。

委：住民の人から良いアイデアがあったらまずは行政が後押ししてやってみてもらって、うまくいくようなら行政も協力しながら全体に共有していくという流れがいいのではないか。

コ：プロトタイプとしてまずはやってみるということも大切ですね。市民の挑戦を応援するということですかね。やりたいということをやってみて、うまくいったら他の困っている地域にも展開するということも大事ですね。

委：今の縦型の組織（市役所・区長・住民のような）だとコミュニティや役を維持するのが難しくなるのではと感じた。横でのつながりや情報共有が必要なのでは。必ずしも同じやり方でどの地域でもうまくいくわけではないと思うので、コミュニティ同士が横のつながりを持つことで、この地域ではこうしたほうがいいのではないかというような改善案も出てくるのではないか。いい意味でコミュニティや個人間で差別化し、それぞれの状況にあった色を出すことも大切なのかなと感じた。

コ：たくさんの役がある中で、各々の役やコミュニティ同士の横の連携がないとうまくいかないことがあると思う。地域としても地域間の連携で解決することなどもあると思う。課題と目標の共有化が必要なのではないか。

委：情報共有として、例えばうちの隣組では、隣組長を今年やっても来年やってもやることは毎年同じでマンネリ化している。ほかの地域ではこんな取り組みをしているということを共有してもらえれば、その年ごとの目標を立ててマンネリ化も防げるのかと感じた。また、情報共有とともに共有するためのフォーマットを共有することで効率化することができるのではないかとも感じた。

コ：マンネリ化ということは大事なキーワードと感じた。行政の制度もそうだし、地域の役員も地域の行事もマンネリ化している部分は多いのではないかなと思う。

④地域イベント

委：夏祭りで老人会が肝試しを開催したり、イルミネーション点灯式やビンゴ大会など、老人会と育成会が合同でボーリング大会をやっていたりする。楽しみながらイベントの運営や参加することができていて、これは自分の地区の良い部分なのではと思う。

コ：世代間交流がよくできているということと、やっている人たちが楽しめている印象を受けた。わくわく感を持ってできるということは重要なことですね。

委：うちの地域では祇園祭をやっている。（コロナで今はできていない）それに伴い子供の太鼓練習などもある。そういった行事を子供が体験できると、大人になったときに「子供の時にこんなことをしたな」という記憶にも残るであろうし、こういった行事は後世に残していけるといいと思う。

コ：思い出作りというところがキーワードなのかと感じた。進学や就職で 1 度地元を離れたとしても、子供の頃の楽しかった思い出などが、地域に対する誇りや愛着を持つことにつながるのではと感じた。そういう気持ちが太田に戻ってこようという気持ちにもつながるのかなとも感じた。

委：若い世代が企画の段階から参加するような形が大切なのではと思った。いろんな世代の人企画の段階から参加する、みんなで作り上げるイベントを作ることが大切では。

⑤安全・安心

委：仕事柄感じることなのだが、身寄りのない高齢者の方などをフォローする体制がなかなか整っていない。例えば、庭先で倒れた老人を近所の方が発見して連れてきてくれた時に、もしその方の家族とすぐに連絡を取れない場合や独居の方であった場合に、近所の誰かがある程度の世話や、必要であれば何かの書類を代筆するなどの処理を担えるような仕組みなども必要なのではと感じる。

コ：助け合いの制度を考える必要があるということですね。ある場所では、災害時に独居老人などに対して 3 人程度のフォローする（例えば避難所へ連れていく）知り合い人をあらかじめ決めておくという取り組みをしているところもある。あとうちの地域では、普段服用している薬の情報や保険証のコピーを書いた筒を冷蔵庫に入れておくというような取り組みもしている。そうすることで、緊急時にその筒を見れば必要な情報を入手できるようにしている。

委：うちの地域でも似たようなことをやっていたが、今ではやらなくなってしまった。話を聞いて、再度取り組みたいと思った。

コ：今のお話を聞いて、続ける（広げる）ということが大事なキーワードだと感じた。良い取り組みであっても、中途半端になってしまったりすることがよくある。

⑥住環境

委：場所によって決められた日以外にゴミが出されたりするケースがある。そういった場合には根気強くきれいにする必要があると思うが、地域の委員などでは対応しきれないケースもあると思うので、そういった場合は行政のサポートも必要かと思う。

コ：行政のサポートと諦めずに対応することが大切かと思う。ゴミをそのまま放置するのではなく、根気強く対応することで改善できるのかなと感じた。また、それに対しての行政のスピード感を持ったサポートも大切。スピード感が好循環を生むのではないか。

⑦近所付き合い

委：私の住んでいるところは何もない畑の所に 12 軒売り出されて集まったような形だったので、そこだけで回覧板が回っていたり、各家の家族構成などもそれぞれが把握できている。防災や防犯ことについて話をすることもあり、ご近所付き合いがうまくいっているように感じている。

コ：同じ時期に引っ越してきていることも、いい関係が築けている要因の一つなんですかね。

委：それもあるし、同じくらいの子供を育てているという似た境遇の家族がいることも要因の一つかと思う。

コ：近所付き合いがうまくいっていることと、自分の日々の生活の幸福度はリンクしているように感じたのだがいかがですか。

委：住むところは毎日の事なのでそこの関係がうまくいっていることは幸せなことかなと思う。また、それぞれの家族があいさつをしっかりしていることもうまくいっている要因だと感じる。

コ：キーワードとしてあいさつということも挙げられるのかなと思った。顔の見える良好な近所付き合いができていることが、ストレスが少ないことにつながっているのでしょうね。

委：私自身はそんなに近所との交流はない。ただ組長をやっていたこともあるので、どんな人が住んでいるかなどは把握しており現状問題は感じてない。年に 1 回の公園清掃の

時などには話をしている。

コ：地域清掃などの顔を合わせる地域行事などは、お互いのことを知ることができたりするので、なにか意味のある行事なのではないかと感じた。

委：私はほぼ近所づきあいはない。アパートに住んでおり隣にどんな人が住んでいるかも知らない。イベントや地域行事などで顔を合わせるといったようなきっかけがあればと思う。

委：気軽な付き合いができれば、引っ越し等で入ってくる側の人間としてはハードルが下がる。例えば受け入れる側の住民が引っ越してきた人に気軽にあいさつをするということも大切かと思う。先ほどの 12 軒の区画のご近所付き合いの話は、みんなが同時期に入っているから気持ち的にも同じ条件で気楽に付き合い始められたのではないかなと感じた。気楽さということがかかわりを持つうえでの一つのポイントなのではないか。あまり近すぎても、関わらなさすぎるのもよくない。

コ：構えないということが大切なのかと感じた。入ってくる側は緊張していると思うので、受け入れる側があいさつするなどの雰囲気作りも大切かと感じる。もう一つ、例えば同じ子育て世代といったような、何か同じテーマを持った状況ということが関係性を築く上での 1 つのキーワードかとも感じた。

委：私の地域では地域の外国人の方のゴミ出しのマナーの問題がある。外国人の方も増えているので、行政からのアプローチも含めて何か対策できればと感じている。

コ：外国人の方だけでなく様々な人がいる中で、多文化共生ということがキーワードかと感じた。外国人の方たちもルールを知らないだけで、きちんとルールを伝えることも大切だと思う。お互いを認めてつなげるということ。

委：情報が日本語のものばかりだと外国人の人も理解できないと思うし、外国人の人も理解できるように情報発信する必要があるのでは。地域のお知らせなどは日本語のものしかなかったりする。外国人の方が理解できる言語でコミュニケーションをとることが大切なのでは。

コ：太田市は外国人の方が多いということもあり、外国人の方への支援（地域での外国人の方への支援）もキーワードとして挙げられる。

委：FM 太郎でポルトガル語でのごみの出し方などの生活の仕方に関する放送があったので、その内容を外国語の文章で発信したり、外国語でのお知らせを構えずに気楽に渡せるような仕組みが必要なのでは。

委：会社の従業員の半分以上が外国人。複数の言語での情報発信はしているが、普段のコミュニケーションは中々難しい。スマホの翻訳アプリなどを使って簡単なあいさつなどの最低限のコミュニケーションをとることはできると思う。簡単な、身近なコミュニケーションから関係性を築くことが大切。

コ：ここまでを振り返っていかがでしょうか。

委：同じ時期に家が建ったところの近所付き合いの関係性が良好という話があったが、自分の住んでいる所のすぐ近くにも同じように雰囲気の良い区画がある。将来自分がその立場になったときにはそういった関係性を築けたらいいなと感じた。

コ：同じ境遇やテーマのもとにあると良好な関係性を築きやすいようですね。